

はじめに

近年、科学技術イノベーションとスタートアップ支援は、社会課題の解決と国際競争力の強化において重要な役割を果たしています。特にバイオ・ライフサイエンス領域では、知財戦略がビジネスの成否を左右する重要な要素となっています。

しかしながら、多くのスタートアップは、知財戦略を適切に構築・実行できる人材の確保に苦心しており、また適切な支援を得る機会も限られているのが現状です。特に、バイオ×デジタルといった新領域での事業展開においては、より高度な知財戦略が必要とされ、その重要性は一層増しています。

このような背景のもと、令和5年度に実施した「近畿地域におけるバイオベンチャーの知財支援体制強化事業」では、多くのスタートアップが直面している課題が明らかになりました。特に創業初期段階における大学や企業との技術移転契約等の重要性が浮き彫りとなり、これらへの対応が不十分な場合、将来の事業展開に大きな支障をきたす可能性が指摘されました。また、公的支援機関による支援制度は充実しているものの、支援活動が分かりにくく、十分に活用されていないという課題も見えてきました。

本ガイドブックは、これらの課題に対応するため、起業を予定している大学の研究者や創業初期のスタートアップの経営者向けに、知財戦略と各種契約における重要なポイントを分かりやすく解説することを目的としています。特に、創業初期段階での知財戦略の構築や、大学・企業との契約における注意点に焦点を当てています。

そのほか、バイオ・ライフサイエンス領域で活躍する国内スタートアップやベンチャーキャピタル、海外の専門家へのインタビューによる生声に加えて、公的支援機関による支援活動の情報も掲載しています。

本ガイドブックが、創業初期から知財・契約の観点を含めた戦略的な経営の重要性を考えるきっかけとなり、より多くのスタートアップの皆様が持続可能な成長への道筋を見出す一助となることを願っています。